

年度 2011 前期	曜日・校時	月一水・5	必修	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー			
対象年次	講義形態	講義科目	教室	
対象学生(クラス等)	1年次	科目分類	共通基礎科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員 : / Eメールアドレス : / 研究室 : /TEL : /オフィスアワー :				
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法: それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。</p> <p>授業到達目標: ①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。</p> <p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」について PBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>6回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 7回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>10回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 11回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 14回 ディベート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p> <p>15回 合同報告会</p>				
キーワード	医薬品, 長崎			
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報処理入門テキストとマニュアル本			
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応			
備考(準備学習等)	報告, 発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時, 参考書を持参すること。			

年度 2011 学期 前期	曜日・校時 月/火/水・5	必修選択 必修	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室 全学■番教室 他	
対象学生(クラス等) クラスNo.■～■	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: ■■/Eメールアドレス: ■@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部■階/ TEL:095-819-■(直通) ■(2370) /オフィスアワー: 予約すること(事前にメールで連絡すること) ■@nagasaki-u.ac.jp			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法: 学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たった課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p> <p>授業到達目標: ① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明</p> <p>2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>3回 図書館資料収集ガイダンスの受講</p> <p>4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>9回 中間発表 質疑応答</p> <p>10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 発表資料の修正と再提出・レポート素案の修正と再提出</p> <p>13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション</p> <p>14回 合同発表会によるプレゼンテーション、質疑応答、レポート最終素案の提出</p> <p>15回 最終レポートの修正</p> <p>16回 最終レポートの提出</p>			
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその時、指示する。		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加 20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)		
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学教育学生便覧の2ページを参照すること。		
備考(準備学習等)			

年度 2011 学期 前期	曜日・校時 木・5/金・5	必修選択 必修	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室 (別指示)	
対象学生(クラス等) 新入生全員	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:経済学部教員(クラス担当教員は別指示)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい:知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法:1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する</p> <p>授業到達目標:① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学教育学生便覧の★ページ参照		
備考(準備学習等)			

※ 下記朱書きの項目を記入願います。

年度 2011 前期	曜日・校時 水・5校時 or 6校時	必修	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー		
対象年次	講義形態 講義科目	教室 医学部セミナー室	
対象学生(クラス等)	1年次	科目分類	共通基礎科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: /Eメールアドレス: /研究室: /TEL: /オフィスアワー:			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字) 授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。 授業方法: 学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。 授業到達目標: ①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 授業内容(概要) 第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表・質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正) 第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出 第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、結核案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 合同発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出			
キーワード	初年次少人数セミナー 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力		
教科書・教材・参考書	授業の振興に合わせ、必要があればその時指示する。		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2011 年度 前期	曜日・校時 火曜日・V時限	必修選択 必修	単位数 2
授業コード	教養セミナー		
授業科目(英語名)	教養セミナー		
対象年次 1 年	講義形態	教室 保健学科各チュートリアル室および実習室	
対象学生(クラス等)	科目分類		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー / / / /			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 1) 大学生としての自主的な学習能力を習得する。 2) 医療従事者として必要なコミュニケーション能力を習得する。 3) 看護職・理学療法士・作業療法士としての役割、機能について理解する。 授業方法(学習指導法): 看護・理学・作業療法学専攻別に 6~7 人のグループに分かれ、担当教員の指導のもとにテーマを設定して学習を進める。専攻別に発表会を開催し、討論を基に最終的な資料をグループで作成し、学習成果として提出する。 到達目標: 1. 学習テーマの課題遂行を通して、問題提起、情報収集、論理的考察・ディスカッション、プレゼンテーションの Study Skill (基礎的な学習技能) を習得する。 2. 学生相互および学生と教員間のコミュニケーションを密に行うことで、医療従事者として必要なマナーおよびコミュニケーション能力を習得する。 3. 看護職・理学療法士・作業療法士の役割、機能について討論することで、今後の大学での学習活動を円滑に進めることができる。			
授業内容(概要) / 授業内容 (毎週毎の授業内容を含む) 第 1 回 4/12 教養セミナーガイダンス (松坂学科長) 担当教員、グループメンバー紹介 : 101 教室 その後担当教員の指示でグループ別にチュートリアル室へ移動する 第 2 回 4/19 グループ毎に今後の学習の進め方について検討する : 各チュートリアル室および実習室など 第 3 回 4/26 資料収集ガイダンス (医学分館職員) : 101 教室 (5/10,17 は入門科目病院実習のため担当教員ごとに別の日時に授業時間を設定する) 第 4 回~13 回まで グループ毎に学習を進める : 各チュートリアル室および実習室 第 14 回 専攻別に発表会を行う 第 15 回 提出用学習資料の追加・修正→各担当教員に提出			
キーワード	学習能力、コミュニケーション、		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

※ 下記朱書きの項目を記入願います。

年度 2011 前期	曜日・校時 前期:月・V	必修選択 必修(1年次生)	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)		
対象年次 1年次	講義形態 講義科目	教室 歯学部 (別指示)	
対象学生(クラス等)	1年次	科目分類 共通基礎科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: /Eメールアドレス: /研究室: /TEL: /オフィスアワー:			
担当教員(オムニバス科目等)	柴田恭明 siva@, 中山浩次 knak@, 齋藤俊行 syto@, 藤村裕治 yuji@, 日高聖 hidaka2@, 添野光洋 soeno@		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字) 授業のねらい: 学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。 授業方法: 1クラスの学生は8-9名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する 授業到達目標: ①□ 自主的な学習方法の習得 ②□ 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③□ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 授業内容(概要) 1 新入生を6グループ(1グループ8-9人)に分け、月曜日のV校時に開講する。 2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。 3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。 第1回 4月11日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 4月18日 第3回 4月25日 第4回 5月2日 第5回 5月9日 第6回 5月16日 第7回 5月23日 第8回 5月30日 第9回 6月6日 第10回 6月13日 第11回 6月20日 第12回 6月27日 第13回 7月4日 第14回 7月11日 各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。 第15回 7月25日 総合討論とレポートの提出			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。		

※ 下記朱書きの項目を記入願います。

※ 下記朱書きの項目を記入願います。

年度 2011 前期	水・木・金曜日 ・ 5校時	必修	単位数 2
授業科目/(英語名)	教養セミナー		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	工学部教室
対象学生(クラス等)	1年次	科目分類	共通基礎科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 別紙に記載			
担当教員(オムニバス科目等)	別紙に記載		
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 (500 文字)			
<p>授業のねらい: 大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り、大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標としている。そのために、知的活動に自主的に取り組む習慣を身につけ、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を習得し、口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを行うことにより自己表現能力を高めるとともに、レポート作成による論理的な思考の方法を身につけることを具体的目標としている。また、大学での学習の入り口として、教員および学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を学ぶ。</p> <p>授業方法: 1 工学部の学生を工学部教員が指導する。 2 従来の教養セミナーの教育方針を受け継ぎ、30 クラスを開設して少人数教育を実施する。 3 授業内容(シラバス)と成績評価方法・基準を統一するとともに、一方では、ある程度の教員の裁量も成績評価に取り入れられるように工夫する。 4 同一コース(教育プログラム)の学生のためのクラスができないよう工夫をする。 5 個人発表とグループ発表の機会を設ける。</p> <p>授業到達目標: 1 知識・理解: 多文化・異文化に関する知識、人類の文化、社会と自然に関する知識を獲得する。 2 汎用的技能: コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を涵養する。 3 態度・指向性: 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力を育てる。 4 統合的な学習経験と創造的思考力: これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用して問題解決する能力を涵養する。</p>			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)			
<p>授業内容(概要) 第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介カードへの記入、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス、個人発表テーマⅠの提示 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分)、個人発表テーマⅡの提示 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分)、個人発表テーマⅢの提示 第5回 話し方講座(効果的なプレゼンテーションを行うための学習) 第6回 個人発表Ⅲ(発表5分+質問1分) 第7回 発想法、グループディスカッションの方法に関する講義と演習 第8回 グループ分け(4名一組)、グループ研究テーマの説明と設定 第9回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集 第10回 収集した資料等を基にしたグループディスカッション 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(選抜されたチーム同士による決勝) 第15回 レポート作成に関する指導</p>			
キーワード	初年次少人数セミナー、転換教育、初年次教育、自己発言能力、コミュニケーション力		
教科書・教材・参考書	授業の進行に応じて、必要があれば提示する。		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的な参加 20 点、プレゼンテーション 20 点、レポート 60 点		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度	2011 前期	曜日・校時	環境科学部掲示版に掲示	必修選択	必修	単位数	2
授業科目/(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)						
対象年次	1年次	講義形態	講義	教室	環境科学部掲示版に掲示		
対象学生(クラス等)				科目分類	共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー							
担当教員(オムニバス科目等)							
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。 授業方法: 受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。 授業到達目標: ① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。							
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)							
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力						
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。						
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%						
受講要件(履修条件)							
本科目の位置づけ/学習・教育目標	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。						
備考(準備学習等)							